



連協道路ニュース

発行 横浜環状道路(圏央道)対策連絡協議会 事務局
Tel&Fax892-9113 <http://www5e.biglobe.ne.jp/~renkyou/>
Mail: renkyoueditor@mail.goo.ne.jp

第 213 号

2007.06.03

事業者等

質問集会受け入れ

平成 17 年 9 月 18 日の「環境アセス - 大気汚染予測について」の質問集会に引き続いて「地盤沈下について」第二回質問集会開催を計画して事業者と交渉を重ねた結果、本年 7 月 14 日(土)に開催が決定した。

事業者側は「質問集会形式ではなく当局の説明会としたい」と主張して交渉は難航した。そこで平成 17 年 3 月の事業評価監視委員会の「環境保全対策について、住民の方々から疑問・意見が出た場合には誠意を持って対応すること」という付帯意見があり、住民の疑問に答える一問一答形式にすべきであると強く主張した結果、当局もこれを受け入れざるをえなかった。

以下に交渉の経過を簡単に記す。

本年 3 月 15 日住民 6 名が国交省関東地方整備局(さいたま市)道路計画第一課及び計画調整課の課長補佐らと面談し、地盤沈下に関する質問集会開催を申し入れた。

これに対して具体的には実施機関である横浜国道事務所と交渉してほしいとの事で、以後東日本高速道路(株)横浜工事事務所、横浜市道路局を含めた三者と交渉。3 月 22 日の交渉で当局は 100 名規模の質問集会開催には強く反対した。

4 月 12 日の再交渉で、地盤沈下は生命・財産に関わる重大な問題であり、住民の切実な質問に答えるのは事業者の当然の責任であると厳しく要求した結果、4 月 18 日に漸くこれを受け入れた。ついで 5 月 16 日の最終打ち合わせで集会の具体的手順を決定した。

(質問集会実行委員会)

質問集会概要

表題：環境アセスに関する質問集会
- 地盤沈下について -

主宰：横浜環状道路対策連絡協議会

日時：平成 19 年 7 月 14 日(土)

13 時 30 分より 16 時予定

場所：本郷地区センター大集会室

内容：南線桂台トンネル工事に伴う
地盤沈下について

出席：連協側代表質問者

住民 本田瑛美氏、他

専門家 坂巻幸雄氏(日本環境学会)
他一名予定

事業者

国交省

小池建設専門官

東日本高速道路 上田工務課長、他

当日は事業者側からの説明の後、連協側代表質問者が一問一答形式で質疑応答を行いません。参加者よりの質問も受け付ける予定。

又、後日集会記録を作成し、事業者も原稿校正を行なうことで合意しています。

多数の皆様の参加をお待ちしております。

活動報告

04/21 ヨコハマ市民会議 横環南線の報告

04/12 対市・事業者と上郷公田線交渉

04/26 都収用委第 1 回公開審理(八王子)

05/06 連協全体会議(朝日平和台)

05/16 事業者・行政と質問集会実施打合せ

05/18 東京都収用委事務局へ抗議と申入れ

05/28 かながわ連絡会(県民サポート)

05/31 都収用委第 2 回公開審理(八王子)

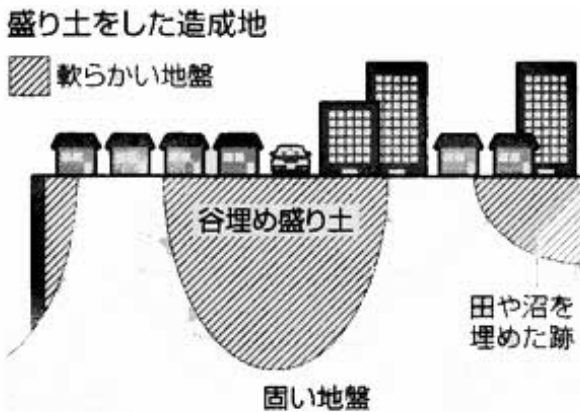
あなたの家は安心ですか？ 基礎地盤は大丈夫？

(H19.5.25 朝日新聞より引用)

盛り土や埋め立てをして造成した住宅地全体が大地震で一気に崩壊する危険性があることがわかってきました。

桂台地区は、山を削った土砂で谷を埋めて造成された。(連協ニュース 179 号参照) 谷を埋めた部分の土は柔らかく、加えて地下水位も高い。大地震が起これば液状化現象を起こし、瞬時に崩壊します。専門家は、「このような地盤地形は日本のあらゆるところに見られる」と警告している。

盛り土部分の見分け方
造成前の地図確認
建物の亀裂や沈下に注意
地下水を抜く対策もあり



「谷埋め盛り土」部が崩壊の危険

身近な地盤沈下問題

1. 横浜市港北区篠原地区

問題の篠原地区は、東海道新幹線新横浜駅の南、500 - 600 ㍍付近に位置し、両側を緩やかな斜面に囲まれ、谷底の田んぼを埋め立て造成した一帯である。

昭和 57 年に始まった市営地下鉄線工事に伴う地盤沈下は、完成後 10 年を経過した現在も止まらず、最大 1 ㍍以上に及んでいる。補償交渉は難航し、地盤が安定してから復旧工事、保障は一度のみとの条件となっている。

いつ地盤沈下が終息するのか、又一度修復工事した部分が又沈下した場合の補償はどうなるのか？地元住民は泣き寝入り状況です。

2. 栄公会堂付近一帯

連協ニュース 183 号でも取り上げましたが、公会堂一帯では大規模地盤沈下がありました。現在は補修され跡形もありませんが、そのうちに又亀裂が出ないと誰も保証できません。

栄公会堂一帯で地盤沈下

原因は地下 50 ㍍下水管

栄公会堂正面玄関から区役所方向へ、さらに建物を辿って西側へいくと建物壁と地面との接続部分やタイルが破損しコンクリートが割れ、手すりが斜めに傾いている光景を何カ所も目にすることができます。原因は地盤の沈下。建物の周辺の路盤が沈下し、道路のタイルや手すりが壊れたからです。



(地盤沈下によるタイル破損、栄区公会堂)

ボーリングをしても事前予測できなかった地盤沈下が発生し、南部下建設事務所でも因果関係を否定できず、損失補償交渉を行い、公会堂の補修も下水の予算で実施する方針とっています。

地下 50 ㍍の硬い地盤の大深度の工事、直径 280 ㍉でもこのような事態が起こります。埋立地を 40% 以上も持つ軟弱地盤の桂台地区、犬山、上之、ネオポリス、庄戸および朝日平和台など南線でも同じ事態が考えられます。

3. 桂台地区

高速道路予定地の桂台一帯は、丘陵地を削り、その残土で谷を埋め立てた地域であり、ここに南線のトンネルを掘れば、地下水との関係で何が起きるかは容易に想像できます。

工事以前の段階ですでに地盤沈下のために、補修した家もあると聞きます。損害が出てからの補償では遅いのです。(事務局)